

水田の作付転換に

「青刈りとうもろこし」

つくりませんか！？



- 他の転作作物（飼料用米等）と遜色ない所得が期待できます。
- 水管理の手間がかかりません！
- 機械が無い場合には地域のコントラクター等にご相談ください。
（集団で機械を導入する場合には補助金も使えます）
- 地域ぐるみ（地域協議会など）での飼料増産の取組の支援も行います。



ご不明な点は以下までお問い合わせください

| | | | |
|-------------------|--------------------------------------|------------------------|--------------------------------------|
| 農林水産省畜産局 飼料課 | 03-3502-8111(代表) 03-3502-5993(直通) | 東海農政局畜産課 | 052-201-7271(代表) 052-223-4625(直通) |
| 北海道農政事務所 生産支援課 | 011-330-8800(代表) 011-330-8807(直通) | 近畿農政局畜産課 | 075-451-9161(代表) 075-414-9022(直通) |
| 東北農政局畜産課 | 022-263-1111(代表) 022-221-6198(直通) | 中国四国農政局畜産課 | 086-224-4511(代表) 086-224-9412(直通) |
| 関東農政局畜産課 | 048-600-0600(代表) 048-740-0027(直通) | 九州農政局畜産課 | 096-211-9111(代表) 096-300-6278(直通) |
| 北陸農政局畜産課 | 076-263-2161(代表) 076-232-4317(直通) | 沖縄総合事務局生産振 興課 畜産振興室 | 098-866-0031(代表) 098-866-1653(直通) |

農林水産省

青刈りとうもろこしとは？

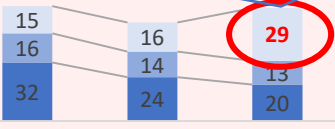
○なんで“青刈りとうもろこし”なのか？ ～酪農家のニーズがあります！～

現在、酪農経営は大規模化が進んでいます。一方で、大規模化が進むと、飼料生産まで手が回らなくなり、特に都府県酪農では飼料自給率が下がる（輸入飼料を使う）傾向があります（下表）。

しかしながら、輸入飼料は高騰を続けており、今あらためて国産飼料に注目が集まっているのです。

100頭規模以上の大規模酪農が増えていきます！

大規模酪農では自給飼料の作付が足りていません！



| | 1頭あたり作付面積 (ha/頭) |
|-------|------------------|
| 1頭～ | 0.16 |
| 50頭～ | 0.13 |
| 100頭～ | 0.06 |

都府県酪農規模別自給飼料作付面積 (R元)

○青刈りとうもろこしを作るメリットは？

✓ 水管理の手間がかからないなど、**大幅な労力削減**が期待できます！

✓ **一定の収入が確保**できます！

青刈りとうもろこしの全国平均収量は4,960kg/10a（都府県では4,220kg/10a）です。（湿害に弱いため、特に水田転作初年度は収量が落ちる場合があります）

水田活用交付金の対象（35,000円/10a）にもなりますので、仮に4,000kg/10aの収穫で、15円/kgで販売できた場合には95,000円/10a、20円/kgであれば115,000円/10a、30円/kgであれば155,000円/10aの収入となります。

（※収入を保証するものではありません）

✓ 温暖な地域では二期作も可能で、更なる所得upも期待できます。

○どのように始めればよいの？誰に相談すれば良いの？

まずは使ってくれる酪農家を探すことが大切です。自治体の畜産担当や表面に記載の各地の農政局にご相談ください。

また、地域のコントラクター（飼料生産組織）に生産を委託することも可能です。

地域ぐるみで取り組む場合には、**地域協議会等への支援事業**も用意しています。（定額助成。令和4年度予算にて要求中）

飼料用とうもろこし（デントコーン）を、完熟前に収穫して、茎、葉、実の全てを利用します。収穫は、細断してロール状にしたものをラッピングするか、ラップの代わりにバンカーサイロに詰め込みます。温暖な地域では二期作を行っている事例も。



青刈りとうもろこし



収穫・細断



バンカーサイロ



ラッピング